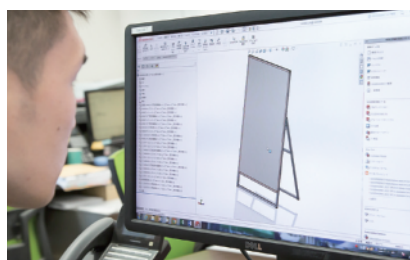


07/28 - 07/29

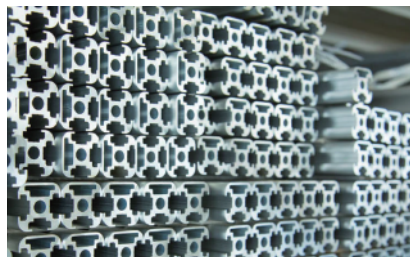
EXPO メッセ「WASSE」
地域の魅力発見ツアー 夏



得意のアルミフレームを
使ったワークショップで
ものづくりの魅力を体感



完全自社生産ゆえの「短納期」の強みも実現



自社オリジナルの「TSアルミフレーム」が
強い競争力を発揮



万博仕様に、青と赤のアルマイト処理を
施したアートパネル

自社独自の「TSアルミフレーム」を使ったブランド製品を展開

1964年に切削加工業で創業した常磐精工株式会社。現在は、置き型看板の開発から製造までを一貫して担うメーカーとして、豊富な商品ラインナップと、品質の高さ、安定した供給能力を誇っています。特に同社の強みは、軽量で錆びないという特徴を持つアルミ製品に特化。置き型看板におけるニッチトップを目指しており、約3,000種類のラインナップを持つA型看板の年間3万〜4万台の生産量は国内でもトップレベルです。アルミがステンレスと比べて強度が低いとされますが、同社では特殊な構造を持つ「TSアルミフレーム」を独自に開発し、高い強度を実現しています。最近では「TSアルミフレーム」を活かし、スタイリッシュなアウトドアテーブル「TABLEX」シリーズや、おしゃれで部屋の雰囲気を壊さない懸垂マシン「ビギナーズラック」がテレビを初めとした各種メディアでも取り上げられるなど注目を集めています。

万博カラーのアートパネルづくりのワークショップを開催

大阪・関西万博(以下、「万博」という)では、EXPOメッセ「WASSE」で開催される「大阪ウィーク〜夏〜」において、「地域魅力発見ツアー 夏〜大阪43市町村の見どころ〜」の「やりなはれゾーン」で、堺市内のものづくり企業4社(常磐精工、河辺商会、小泉製作所、シャープ化学工業)合同で廃材を活用したアート作品のワークショップを開催します。具体的には、こどもたちを対象にアルミ製アートパネルづくりを体験してもらうもので、そのパネルは万博公式のスタンプラリーパスポートを入れて飾ることもできます。常磐精工では、パネル本体のアルミフレームを提供します。

50年後の堺のものづくりを見据えた 長期的視点での「FactorISM」への参画

同社では2022年から「FactorISM」(※)に参加し、オープンファクトリーだけでなく、商業施設でのワークショップも積極的に行っています。そこには、事業を承継した若手経営者だからこそ、30年、50年先の人材育成を見据えた、次世代のこどもたちにもものづくりの楽しさを知るきっかけづくりをしたいという喜井社長の長期的な視点でのねらいがありました。また、オープンファクトリーで社外の人たちが現場に入ること、自分たちの仕事を見つめ直したり刺激を受けたりと良い効果が生まれています。

※FactorISM(ファクトリズム)とは、堺市や八尾市など大阪府内の町工場でもものづくりの現場を体験・体感してもらうイベント。一般の方向けに工場見学やワークショップを開催し、職人が何を考え、何を感じてものづくりに励むのかを知り、そこに憧れをもつ。合言葉「こうばはまちのエンターテインメント」にはそんな思いが込められている。



代表取締役

喜井 翔太郎
さん

万博の描く「未来社会」は、 目指す高付加価値なものづくりの指針に

今でも何かとEXPO'70の映像が流れるように、国際的なイベントである万博は歴史に残ります。その舞台に参画できたことに意味があると考えています。それを従業員たちとも共有したく、従業員と家族にチケットを贈りました。万博にはテーマパークとは異なる別の面白さがあり、今回のテーマにある「未来社会」についても、当社がコストで競争しない高付加価値なものづくりを目指して取り組み始めた、ものづくり企業の新製品開発のサポート事業にも関わることで、興味深く思っています。

事業内容

立て看板やディスプレイ仕器
の製造・販売、アルミフレーム
製品の試作開発サポート

主な取引先(納入先)

商業施設、教育施設、官公庁
その他公共施設、スタートアップ
新規事業担当者

主な製品・サービス等

店舗前スタンド看板、救護器具
兼用看板「サポートサイン」
その他

企業概要

所在地 〒591-8001
堺市北区常磐町3-19-3
TEL 072-255-1287
設立年 1967年(1964年創業)
資本金 2,000万円
従業員 17名

公式サイト

さかしる

